

「旅の力」を世界の隅々まで 世界136カ国・地域から1441企業・団体 来場者数は過去最高の20万人突破

JATAと日本観光振興協会（日観振）、日本政府観光局（JNTO）は9月20日から23日までの4日間にわたり、東京・有明の東京ビッグサイトで「ツーリズムEXPO ジャパン（TEJ）2018」を開催しました。5回目を迎えた世界最大級の「旅の祭典」では、第2回TEJ観光大臣会合、各種フォーラム・シンポジウムやセミナー、展示商談会などを実施。世界136カ国・地域と全国47都道府県から1441企業団体の関係者が参加する一方、会期中の来場者は20万7352人と、初めて20万人を突破して過去最高の規模となりました。



TEJ 観光大臣会合の様子。活発な議論が交わされました



田川博己 JATA 会長



石井啓一国土交通大臣

開会式で主催団体を代表して挨拶した JATA の田川博己会長は、2017年における世界の交流人口が13億2000万人に達し、テロや難民問題、保護主義の台頭といった国際ツーリズムへのマイナス要因も働いたにも関わらず、「旅の力」は世界の経済・社会に及ぼす影響力を確固たるものとしてきていることを指摘。雇用創出や地方創生への貢献、国際的な相互理解の増進と世界平和の実現にも資するツーリズムが、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に果たす役割は大きいという認識を示しました。

また、田川会長は日本国内で発生する様々な自然災害にも言及し、災害からの復興を支える「旅の力」をツーリズム産業全体として発揮していくことの重要性を訴えています。

日本人の海外旅行者数2000万人達成が目前に迫るとともに、順調な増加が続く訪日外国人旅行者数も4000万人の舞台を視野に捉えるなかで、双方向交流6000万人時代を迎えようとしている今、田川会長は「国際観光の牽引役としての『責任』をしっかりと認識して、『旅の力』を世界の隅々まで及ぼすことができるとともに皆さんと力を合わせたい」と語り、「Work for Better World」の実現に向けて取り組む決意を表明しました。

日本を真に世界に 開かれた国に

開会式に来賓として出席した石井啓一国土交通大臣は、2017年に前年比7%増を記録した国際観光旅客数が8年連続でプラス成長を続けていることに加え、「観光は経済だけでなく、社会共生や環境保護、文化・平和安全に大きく貢献するものであり、今後も、この成長を継続させていくことが重要だ」と強調しています。

また、2017年における訪日外国人旅行者数が過去最高の2869万人に達し、旅行消費額も4兆4162億円と、自動車や化学製品の輸出額に次ぐ規模となっていることに言及。同時に「日本人の海外旅行者も、2017年は前年比4.5%増の1788万人となり、明るい兆しが見えてきている」と指摘して、アウトバウンド市場の活性化への期待もにじませています。

石井大臣は政府として観光先進国を目指すうえで、訪日インバウンドの拡大とともに、日本人自身もこれまで以上に積極的に海外へ出かけることが重要と考えていることを表明。「諸外国との双方向の交流により、相互理解を深め、日本を真に世界に開かれた国にしなければならない」と語り、海外旅行を活性化させることにも意欲を示しています。